

平成27年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立門沢橋小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- ・漢字の読みは相当数の児童ができています。
- ・説明文の書き方の工夫については相当数の児童ができています。
- ・新聞のコラムを読み、表現の工夫として具体例を入れることについてはよくできています。

《努力を要する所》

- ・漢字を正しく書くことについて課題がある。
- ・文中における主語を捉えることに課題がある。
- ・「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであると理解することについて課題がある。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- ・目的や意図に応じて新聞の割りつけをすることができる。
- ・目的に応じて中心となる語や文を捉えることができる。
- ・登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができる。

《努力を要する所》

- ・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。
- ・文章と図を関係づけて、自分の考えを書くことに課題がある。
- ・登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することに課題がある。

今後の具体的な取組

- ・家庭学習の一層の習慣化を図り、文章を読んだり書いたりなど学習全般において学年に応じた力を着実に積み上げていくようにします。
- ・国語の学習に限らず、必要なときに辞書を利用していくよう働きかけていきます。
- ・習得した漢字を読んだり書いたりする機会を多くするなど指導を工夫していきます。
- ・助言や提案をする活動では、話し手の立場になって、目的や意図、自分の経験との比較、内容に対する疑問や評価などについて述べるできるように指導します。
- ・要旨を捉える学習では、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や叙述などに着目できるようにします。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- ・繰り上がりのある2位数のたし算は、確実にできる。
- ・分数÷整数の計算は相当数の児童がよくできる。
- ・式で表現された数量の関係を図と関連づけて読み取ることは相当数できている。

《努力を要する所》

- ・小数の引き算の結果のおよその大きさを捉えることについて課題がある。
- ・末尾の位の揃っていない小数の引き算の仕方について理解が不十分である。
- ・示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることについて課題がある。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- ・平行四辺形の性質を基にして、それができる辺の組み合わせをよく理解している。
- ・相当数の児童は、単位量当たりの大きさを用いて目的に応じた買い物の仕方を選び、代金を求めることができる。

《努力を要する所》

- ・示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。
- ・目的に応じた見積もり方で求めた結果を基に、その数にする理由を記述することに課題がある。
- ・長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題がある。

今後の具体的な取組

- ・家庭学習の習慣化をいっそう図りながら、基礎的・基本的学習内容の習得を低学年から積み上げていくようこれからも指導していきます。
- ・計算の結果の見積もりをしたり、結果について振り返って判断したりするように指導していきます。
- ・小数の加法や減法は、整数と同じように位を揃えて計算することを確実に理解させていきます。
- ・作図の手順を形式的に指導するだけでなく、図形の特徴と対応させて理解できるようにしていきます。
- ・およその数については、日常生活の目的と関連づけながら処理の仕方について理解を深めていくようにします。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- ・相当数の児童は顕微鏡の名称を正しく書くことができている。
- ・生物の成長に必要な養分の摂り方について、調べた結果を視点をもって考え、分析できる。
- ・打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係づけながら考え、分析することについては相当数の児童ができている。



《努力を要する所》

- ・析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考え、その内容を記述することに課題がある。
- ・方位を判断するために、観察した事実と関係づけながら情報を考察して分析することに課題がある。
- ・植物の成長に適した栽培場所を判断する場合において、植物の成長の様子と日光の当たり方を適用して考察することに課題がある。
- ・予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。

今後の具体的な取組

- ・「卵を生ませてかえしたい」といった目的意識を基に観察の視点をもたせ、雌雄を見分ける方法や名称について確実な理解を図るようにします。
- ・学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えることができるようにします。
- ・実験をする前に結果の見通しをもち、その内容を発表したり説明したりする活動を大切にしていきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- ・国語の勉強が好き、また、大切だと思うと答えた児童が昨年度より増えた。
- ・観察や実験を行う理科の勉強が好きで、また、よく分かれると答えた児童が多い。
- ・算数の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないかと考える児童の割合(54%)が昨年度(32%)より増えた。



《課題と思われる所》

- ・文章を読むとき、まとまりごとに内容を理解しながら読むことに依然課題がある。
- ・ノートに学習のめあてやまとめを書く学習習慣に課題がある。
- ・読書をすることの楽しみや読書習慣の形成に課題がある。

生活について

《よかった所》

- ・家庭学習で予習や復習によく取り組むようになった。
- ・家で、自分から計画を立てて勉強していると答えた児童の割合が高くなった。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持つようになってきている。
- ・学校のきまりを守って生活している児童が多い。
- ・家の人が授業参観や学校行事に「よく来る」と答えた児童の割合が高い。

《課題と思われる所》

- ・学校での出来事について家庭で話することに依然課題がある。
- ・自分にはよいところがある、と答えた児童の割合が県平均よりやや低い。
- ・将来の夢や希望を持っている、と答えた児童の割合が県平均より低い。

今後の具体的な取組

- ・読書活動を進め、言葉を豊かにしながら授業における言語活動の充実を図ります。
- ・音読や計算、漢字については授業中に十分時間を確保して習熟を図ることが難しいため、これまでと同様、家庭で取り組み、基礎・基本となる学力の定着を目指します。
- ・低学年のうちから時間を決めて自主的に学ぶ習慣がつくように指導していきます。学年が上がるにつれ、自分から課題を見つけ、予習や復習を中心とした自主学習に取り組むよう指導していきます。
- ・家庭での過ごし方、時間の使い方について計画を立てさせ、自分を律しながら見通しを持って毎日を過ごすよう家庭と連携しながら力をつけさせていきます。
- ・児童のよい所をほめ、さらに伸びていくようどの児童にも声をかけていきます。
- ・学力向上に向けた取組について、積極的に情報発信をしていきます。

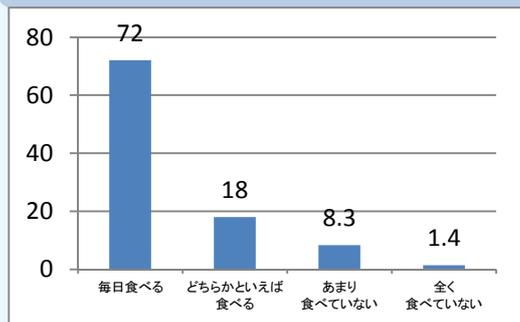
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「家庭で学力を育てる6の項目」をまとめました。ご家庭の状況にあわせて、できることからぜひ始めてみましょう。

1 毎日、朝食をとりましょう。

授業に集中できるよう就寝時間、起床時間を決め、しっかり朝食をとって登校させてください。

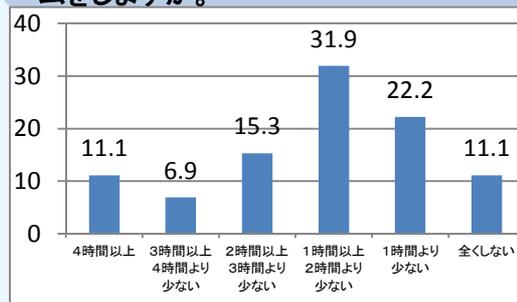
朝食を毎日食べていますか。



2 よりよい時間の使い方について見直しましょう。

よい習慣をつけることは学力向上だけでなく、お子さんの可能性を広げます。

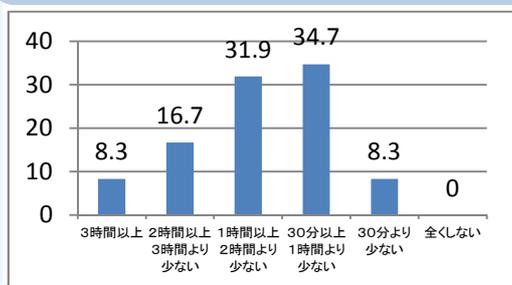
普段1日当たりどれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭での学習習慣をつけましょう。

学習状況を見守り、ほめて励ますことで家庭学習が習慣化するよう関わりましょう。(学年×15分)

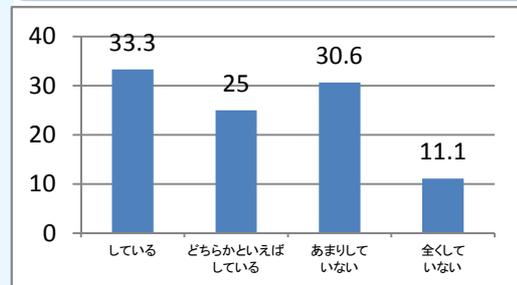
普段、学校以外で1日当たりどれぐらいの時間勉強しますか。



4 自分で計画を立てて取り組みましょう。

1日の過ごし方や勉強について子ども自身が考え、自ら取り組む気持ちを育てることが大切です。

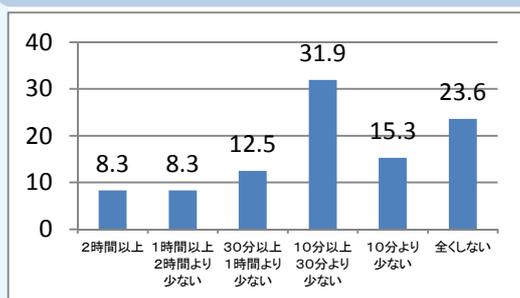
自分で計画を立てて勉強していますか。



5 物語、詩、伝記など様々な本を読みましょう。

読書を通して他者の考え、意見、事実を知ることができます。読書の習慣化を図りましょう。

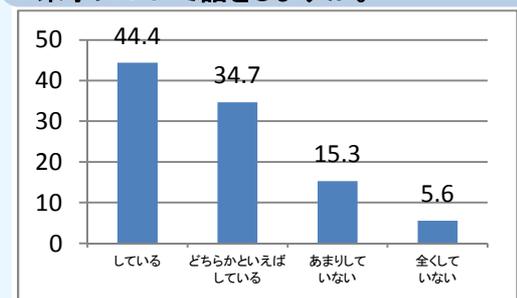
1日当たりどれぐらい読書をしますか。



6 親子でたくさん話をしましょう。

社会の出来事や勉強、将来についてなど親子で話し合うことが学力向上につながります。

家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月